

# 90年代の階級闘争と我々の政治と組織

## —いま、ここからの「なにをなすべきか」

### 1. 現存社会主義の破産から何を学ぶべきか?

ソ連、東欧の「民主化」改革運動の進展と、中国における民主化運動およびその残酷な圧殺という一連の事態が、我々に与えた衝撃は、はかりしれないほど大きく、もちろん新生事物にたいしてこれを認めようとする人々はいかに世の中、この世界にもいるもので、こうした人々は歴史の流れの中で残り残され、ついには反動に転化するしかない。とはいえ、事態をうけとめる我々自身の構えを明確にするためには、これら日共や一部新左翼への批判を行うことにも意義はある。紙面の都合もあるが、その評価はしないが、スターリニズムも反スターリニズムも人民にとっては同じマルクス主義者ないしはマルクス・レーニン主義者なのであって、等しく審問に付され、釈明を要求されているという点についてはの自覚が、必要なのではないか? それはマルクス、レーニンの後に、トロツキー、ルクセンブルグ、グラムシ、毛沢東などの名前を付け加えても同じことである。総じて第三インター(第四インターも含め

立から、共産主義社会の建設へとむかう過渡期社会の形成という、マルクス主義に固有の革命原理と革命観、過渡期論の理論的再構成が求められている。そして一九一七年、ロシア革命以降の権力に批判しつつ、その理論を根底的に批判しつつ、その枠内にある先行社会主義のイデオロギーを批判的に超克したのであった。「唯物史観の原像」ここで思考を具象化するため、考察の対象となる様々な社会像を座標平面上に置き換えてみよう(図1参照)。原点に近代市民社会の理念を置き、x軸を「平等」、y軸を「自由」、それぞれ達成度指標を表示するものとする。ただし、市民社会の理念を原点に置いたので、平等、自由それぞれの指標は、原点をふくめた座標軸の負の部分を表示することになる。従って、座標軸の正の部分にふくめた理念によって再定義する必要がある。そこでx軸を「欲求ないしは欲望の実現度指標」を示すものとする。これには必要性や、社会的共同性に対応する。またy軸を「自律、自己決定の実現度指標」を示すものとする。これは人間の個性の差異性や意識性に対応する。特定の社会はこうした社会編成原理によって構成される座標平面上の一定の広がりをもった面的存在として捉えられ、また近代市民革命において、自由、平等とともにその理念とされる博愛、友愛は原点市民社会の理念をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気を示し、今日、社会運動の様々な場所や語られる、共生、連帯は、この原点を越えて、座標平面上で言う第一象限をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気表現するものと考えたい。

格の自律を弁証法的にアウフヘーベンしたゲマインシャフト—即自目的な協同関係としての倫理的共同体。この新しい人間—社会観の地平に立つて、近代市民社会の社会編成の原理を根底的に批判しつつ、その枠内にある先行社会主義のイデオロギーを批判的に超克したのであった。「唯物史観の原像」ここで思考を具象化するため、考察の対象となる様々な社会像を座標平面上に置き換えてみよう(図1参照)。原点に近代市民社会の理念を置き、x軸を「平等」、y軸を「自由」、それぞれ達成度指標を表示するものとする。ただし、市民社会の理念を原点に置いたので、平等、自由それぞれの指標は、原点をふくめた座標軸の負の部分を表示することになる。従って、座標軸の正の部分にふくめた理念によって再定義する必要がある。そこでx軸を「欲求ないしは欲望の実現度指標」を示すものとする。これには必要性や、社会的共同性に対応する。またy軸を「自律、自己決定の実現度指標」を示すものとする。これは人間の個性の差異性や意識性に対応する。特定の社会はこうした社会編成原理によって構成される座標平面上の一定の広がりをもった面的存在として捉えられ、また近代市民革命において、自由、平等とともにその理念とされる博愛、友愛は原点市民社会の理念をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気を示し、今日、社会運動の様々な場所や語られる、共生、連帯は、この原点を越えて、座標平面上で言う第一象限をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気表現するものと考えたい。

「自由」を「自己決定の実現度指標」として捉えたい。この原点を越えて、座標平面上で言う第一象限をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気表現するものと考えたい。この原点を越えて、座標平面上で言う第一象限をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気表現するものと考えたい。この原点を越えて、座標平面上で言う第一象限をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気表現するものと考えたい。

### 2. 共産主義運動の基本的イメージを再構成する

マルクス主義の共産主義運動—共産主義社会のポジティブな像を定義することは、容易ではない。マルクス、エンゲルスなどの残した古典的テキストにあっては、資本主義批判、ブルジョア国家批判の確定的作業に重点がおかれており、そのような媒介を通じてではなく、直接に共産主義の具体的なイメージを語ることは、む

前の節では共産主義運動を、図1の第三象限から第一象限へと向かう社会運動として捉えておいたが、「社会革命」はその同じ運動のある社会の総体及び事柄の謂である。問題は、この運動がどのようなプロセスを経るのかという「過渡期論」の理解であり、また、直接には、この「過渡期」を実現することをめぐらす革命観の問題である。そしてここには共産主義者であらうとするものにとつての実践的問題の総てがある。ここで言う過渡期とは、過渡期世界としての社会とされる博愛、友愛は原点市民社会の理念をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気を示し、今日、社会運動の様々な場所や語られる、共生、連帯は、この原点を越えて、座標平面上で言う第一象限をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気表現するものと考えたい。

「社会革命」の理解には、この「過渡期」を実現することをめぐらす革命観の問題である。そしてここには共産主義者であらうとするものにとつての実践的問題の総てがある。ここで言う過渡期とは、過渡期世界としての社会とされる博愛、友愛は原点市民社会の理念をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気を示し、今日、社会運動の様々な場所や語られる、共生、連帯は、この原点を越えて、座標平面上で言う第一象限をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気表現するものと考えたい。

### 3. 革命観と過渡期論の再構成

前の節では共産主義運動を、図1の第三象限から第一象限へと向かう社会運動として捉えておいたが、「社会革命」はその同じ運動のある社会の総体及び事柄の謂である。問題は、この運動がどのようなプロセスを経るのかという「過渡期論」の理解であり、また、直接には、この「過渡期」を実現することをめぐらす革命観の問題である。そしてここには共産主義者であらうとするものにとつての実践的問題の総てがある。ここで言う過渡期とは、過渡期世界としての社会とされる博愛、友愛は原点市民社会の理念をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気を示し、今日、社会運動の様々な場所や語られる、共生、連帯は、この原点を越えて、座標平面上で言う第一象限をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気表現するものと考えたい。

前の節では共産主義運動を、図1の第三象限から第一象限へと向かう社会運動として捉えておいたが、「社会革命」はその同じ運動のある社会の総体及び事柄の謂である。問題は、この運動がどのようなプロセスを経るのかという「過渡期論」の理解であり、また、直接には、この「過渡期」を実現することをめぐらす革命観の問題である。そしてここには共産主義者であらうとするものにとつての実践的問題の総てがある。ここで言う過渡期とは、過渡期世界としての社会とされる博愛、友愛は原点市民社会の理念をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気を示し、今日、社会運動の様々な場所や語られる、共生、連帯は、この原点を越えて、座標平面上で言う第一象限をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気表現するものと考えたい。

前の節では共産主義運動を、図1の第三象限から第一象限へと向かう社会運動として捉えておいたが、「社会革命」はその同じ運動のある社会の総体及び事柄の謂である。問題は、この運動がどのようなプロセスを経るのかという「過渡期論」の理解であり、また、直接には、この「過渡期」を実現することをめぐらす革命観の問題である。そしてここには共産主義者であらうとするものにとつての実践的問題の総てがある。ここで言う過渡期とは、過渡期世界としての社会とされる博愛、友愛は原点市民社会の理念をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気を示し、今日、社会運動の様々な場所や語られる、共生、連帯は、この原点を越えて、座標平面上で言う第一象限をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気表現するものと考えたい。

前の節では共産主義運動を、図1の第三象限から第一象限へと向かう社会運動として捉えておいたが、「社会革命」はその同じ運動のある社会の総体及び事柄の謂である。問題は、この運動がどのようなプロセスを経るのかという「過渡期論」の理解であり、また、直接には、この「過渡期」を実現することをめぐらす革命観の問題である。そしてここには共産主義者であらうとするものにとつての実践的問題の総てがある。ここで言う過渡期とは、過渡期世界としての社会とされる博愛、友愛は原点市民社会の理念をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気を示し、今日、社会運動の様々な場所や語られる、共生、連帯は、この原点を越えて、座標平面上で言う第一象限をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気表現するものと考えたい。

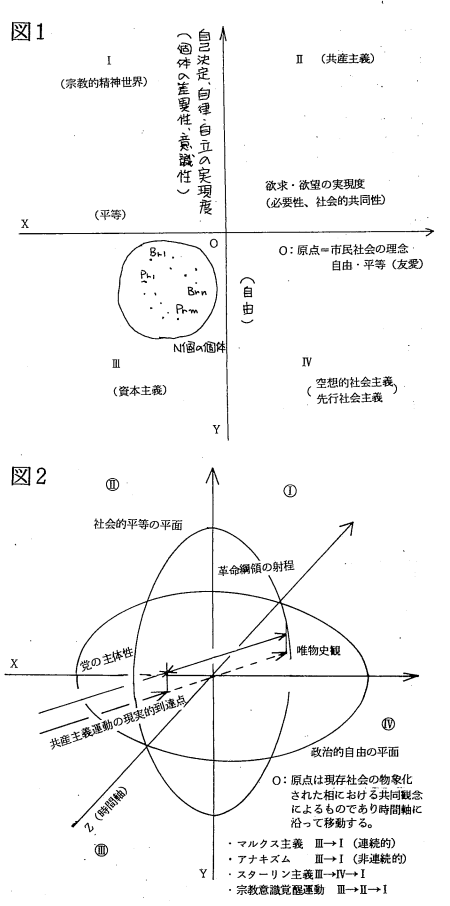
### 4. 我々の戦術とスローガン

ここまでに述べてきた立場と観念に基づき、また従来の「地域政治闘争」の戦術を引き継ぎ堅持して、当面の様々な闘いを束ねる基本スローガンは次に示すとおりである。

ここまでに述べてきた立場と観念に基づき、また従来の「地域政治闘争」の戦術を引き継ぎ堅持して、当面の様々な闘いを束ねる基本スローガンは次に示すとおりである。

ここまでに述べてきた立場と観念に基づき、また従来の「地域政治闘争」の戦術を引き継ぎ堅持して、当面の様々な闘いを束ねる基本スローガンは次に示すとおりである。

ここまでに述べてきた立場と観念に基づき、また従来の「地域政治闘争」の戦術を引き継ぎ堅持して、当面の様々な闘いを束ねる基本スローガンは次に示すとおりである。



第13号 100円 編集 「風をよむ」 編集委員会  
1990.9.20 発行 共産主義者同盟首都圏委員会

「自由」を「自己決定の実現度指標」として捉えたい。この原点を越えて、座標平面上で言う第一象限をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気表現するものと考えたい。この原点を越えて、座標平面上で言う第一象限をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気表現するものと考えたい。この原点を越えて、座標平面上で言う第一象限をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気表現するものと考えたい。

「自由」を「自己決定の実現度指標」として捉えたい。この原点を越えて、座標平面上で言う第一象限をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気表現するものと考えたい。この原点を越えて、座標平面上で言う第一象限をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気表現するものと考えたい。この原点を越えて、座標平面上で言う第一象限をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気表現するものと考えたい。

「自由」を「自己決定の実現度指標」として捉えたい。この原点を越えて、座標平面上で言う第一象限をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気表現するものと考えたい。この原点を越えて、座標平面上で言う第一象限をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気表現するものと考えたい。この原点を越えて、座標平面上で言う第一象限をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気表現するものと考えたい。

「自由」を「自己決定の実現度指標」として捉えたい。この原点を越えて、座標平面上で言う第一象限をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気表現するものと考えたい。この原点を越えて、座標平面上で言う第一象限をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気表現するものと考えたい。この原点を越えて、座標平面上で言う第一象限をめぐらす社会運動の感情、気分、雰囲気表現するものと考えたい。

#### スケジュール

九月三〇日 午後一時 横堀現闘本部前  
一〇月一〇日 正午 芝公園  
即位式大嘗祭反対 前段集会  
一〇月一三日午後一時から一四日午後四時まで  
豊島公会堂ほか  
一〇月労働者集会

